

第1回 韮崎市総合計画審議会

日時	R7.10.09 14:00～15:30	場所	韮崎市役所 別館201会議室	公開区分	公開
出席委員 (敬称略)	林靖人(会長)、根岸利文(副会長)、高添富士雄、千葉健司、内藤香織、西田遥、杉本保、保坂沙央里、向山建生、保坂耕、一木芳恵、青山優介、河西久美、清水好美、山本健一、内藤慶子、篠原充				
欠席委員 (敬称略)	内藤将、名取知佳、岩下和彦				
事務局 (敬称略)	市長:内藤久夫 財務政策課:根津、佐藤、山下 ランドブレイン:田中、生山、鈴木義、川又(記)				
傍聴人	1名				

議題

●委嘱状交付

●市長あいさつ

1. 自己紹介

2. 会長及び副会長の選任

3. 会長あいさつ

4. 議事

(1) 韮崎市デジタル田園都市構想総合戦略の実施状況について

(2) 韮崎市第8次総合計画の策定方針(案)について

(3) 韮崎市第8次総合計画の策定スケジュール(案)について

(4) その他

5. その他

6. 閉会

内容

●委嘱状交付

○時間の都合上、各席に事前配布の形式で委嘱状を交付

●市長あいさつ

現行計画に掲載の満足度・重要度の散布図を比較してほしい。前期基本計画は2016年作成、後期基本計画は2020年作成である。人口減少のスピードが想像以上に速く進んでいるが、2016年には「人口減少対策」という言葉が無かった。また、前期には「電子自治体」という言葉はあったが後期では別の言葉になっている。いずれも時代の変化の激しさを物語っている。

行政と市民意識のずれとして、市民の満足度が高く重要度が低いものに「宅地」とあるが、宅地が確保できず転出してしまった市民の意見は市民アンケートには反映されない。この分析からは課題を見出すことができないことになる。また、満足度が低く重要度が低いものに「農林業」がある。市としては大きな問題だという認識を持っているが、農林業に従事する市民が少ないため、市民アンケートからはこの問題は見いだせない。施策の重要度・満足度分析の裏側にある課題にも目を向けなければならない。

人口減少対策については「女性活躍・男性の意識改革」が必要だと認識している。道路行政についても満足度が低く、道路をはじめとしたまちの見栄えも重要となる。高齢者も多いものの、若者や女性など、これからの未来のある世代にとって魅力的なまちにするにはどうすればよいかというところを目指して、様々な観点から助言いただければと思う。

人口動態については、令和6年の出生数が116人、死亡が384人で自然減268人となっている。いかに人口減少のスピードが速いかがわかる。また、社会増減については、結婚を契機にした2,30代の男性の転出が多い。こういったことも頭に入れておきながら活発な意見交換をしてほしい。

1. 自己紹介

○出席委員がそれぞれ自己紹介を行った。

2. 会長及び副会長の選任

○事務局一任の要望があり、会長に林委員、副会長に根岸委員が任命された。

3. 会長あいさつ

【会長】市長からも話があった通り、変化の速度が速い時代である。計画を作りつつも、アジャイル型で臨機応変に動かしていくことが重要となる。委員の皆さんには、計画の策定に加えてプレイヤーとしても、計画の実行という面でもご協力いただければと思う。

4. 議事

(I) 茱萸市デジタル田園都市構想総合戦略の実施状況について

○事務局が資料3～5を用いて説明

【委員】デジタル田園都市構想のポイントとして well-being があったと思うが、検討課題の中には入らないのか。

【事務局】引き続き、総合計画の中に入れる形で作成していく。

【委員】現状として記述がないので質問した。

【事務局】具体的な記述をするかどうかは検討が必要となるが、計画の中に well-being の考え方を含める方向で調整していく。

【委員】1点目は、資料4の納税者一人当たりの総所得について、この目標は最低賃金の上昇に伴い自動的に達成されるのではないか。

2点目は関係人口の実績値の数値が向上している要因について質問したい。

【事務局】1点目の総所得に関する KPI の達成要因は、一概に最低賃金の上昇のみでないと考えている。商店街の活性化や工場誘致など様々な施策の結果と考えられる。

2点目の関係人口の数値が増えた要因としては、担当課による PR が考えられる。担当者が東京に足を運んで葦崎の PR 等も行っている。移住ツアー等の新たな取組が結実したと認識している。

【委員】資料3のp31「環境に配慮したまちづくり」（環境の中に安全に配慮した持続可能な地域づくり）について、ぜひ次期計画に入れてほしい。キッズISOというプログラムもあるが、メンテナンスがされていない。新しいものを取り入れて、未来に向けた環境教育に活用できるようにしていきたい。

【会長】ネイチャーポジティブやウェルビーイングと連携して次期計画に書き込めればと思う。

【委員】次期総合計画は、デジタル田園都市国家構想総合戦略と総合計画が複合した、という認識でよいか。計画の全体像や委員がどういう立場で会議に臨んでいくかなどが見えないので、スケジュールやイメージも含めてもう一度説明してほしい。

【会長】もともと総合計画があるなかで、いわゆる「地方創生」という言葉や総合戦略というものが途中から出てきたが、今や総合計画と重複する部分が多いということから、特出しでなく一本化していくという動きがどんどん進んでいる。私も一本化は合理的であるというふうに思っている。

一人で全ての領域を見るのは無理だと思うので、まずは自分の分野に近いものについて意見をいただけるとよいと思う。スケジュールについては改めて事務局に説明してもらえればと思う。

【委員】基本目標1について、葦崎市としては工業と農業のどちらにウェイトを置いているのか。穂坂にできた東京エレクトロンの工業用地は元々ぶどう畑だった。工業の発展で農業が衰退するのでは、という懸念がある。

【事務局】明確にウェイトを回答することは難しいが、農業をないがしろにして工業を進めるといったことではない。これからの市民アンケートやワークショップなどを行い、市民の意見も聞

きながら検討していければと思う。

(2) 荏崎市第8次総合計画の策定方針(案)について

(3) 荏崎市第8次総合計画の策定スケジュール(案)について

○事務局が資料6～10を用いて説明

【委員】資料7のp5の問16について、設問の内容とカテゴリが一致していないように思える。

【事務局】設問に応じた形に修正する。

【委員】資料6のワークショップについて、県庁との意見交換で共創について話す機会が多いが、市内で話す機会はこれまで無かったので、もっと事業者と行政職員が意見交換できる機会があるとよいと思う。ワークショップについても、既存のフレームだと、現状の不満をぶつけるだけというケースもあるので、参加者が想像力を持ってその場で臨めるような設計とするなど、思考を柔らかくして参加できるようにしてほしい。

【会長】ワークショップはマネジメントや1つ1つの細かい工夫で質が大きく変わる。ぜひそういった点にも留意して進めていただければと思う。

【委員】市職員に知ってもらうため、という説明に関して、市職員の中でも他部署の取組も共有していくというのは重要だと感じている。流動的かつ柔軟に連携できるような体制ができるとよいと思った。職員の自覚があってこそ、共創の動きが活発になるとおもう。

【会長】計画策定を通じて、現状の市の体制が今のままで良いのかという点も考えられるとよい。他自治体では、市職員が副業的に別の領域にオーバーラップする体制が敷かれている例もある。

【委員】市民アンケートが計画の方向性や課題抽出する際の重要な要素と認識している。第7次の時のアンケート内容は不明だが、前回と同じ質問を列挙しているのか、現状の課題を踏まえて新たな設問が入っているのか。

【事務局】これまでの市民アンケートの内容は、資料9に示すものである。今回はこれだけでなく、定住意向やウェルビーイングなど、新たな視点で設問を設計している。

【会長】絶対に実施してほしいということではないが、隣のまちの住民へのアンケートを実施してはどうか。市民に加えて、隣のまちからみてどうかを聞き取る。

定住人口だけでなく関係人口など、人の関わり方が流動的な現代において、柔軟な視点での調査があると有意義なのではないか。

【委員】資料7のアンケート問22について、「支障となること」ではなく、「こうなるとよいこと」という聞き方にするとよいのではないかと。ネガティブに聞くと、不満がどんどん出てきてしまうので、前向きな設問が良いと思う。子育て支援は年齢や月齢によっても大きく異なり、もう一人産みたくなるような環境になるといい。ただし、市民懇話会でポジティブな意見を聞き取るので、アンケートはネガティブな聞き方をすることかもしれない。

【会長】問題解決と価値創造など、聞き方一つで意味が違ってくる。

【委員】ワークショップに入れてもらって、市民の生の声を聞かせてほしい。オブザーバーでもいいので、委員にも参加させてほしい。

【会長】ワークショップを実施する際には、委員にもアナウンスしてほしい。

【会長】アンケートについて、会議後にでた意見を反映する余裕はあるか。

【事務局】10/14(火)までに意見があれば事務局まで連絡をお願いしたい。

(4) その他

【委員】最上位計画なので禪を締めて取り組む必要がある。

荏崎市というのは歴史的な要素を多く持っている。市民や職員が市の価値を認識し、情報発信が必要になると思う。情報発信をきっかけに市外から来訪者が増えた経験がある。

防災については、これまでの縦割り体制では対応できない。それぞれの部署が自覚をもって対策をするような体制にしてほしい。

【会長】計画の作り方にも工夫ができるとも感じる。計画策定の中で共助の意識が芽生えるような手法を取り入れることもできると思う。

知らないものは発信できないので、市内の色々な場所でワークショップして知ってもらう機会にもする、というのも一手ではないか。

【事務局】アンケート以外の部分についても、火曜日までに気づいた点があれば連絡してほしい。

【事務局】第2回は年度末を想定している。開催前には事前に資料を送付する。

5. その他

6. 閉会

以上